

鎌倉ゆかりの 芸能と儀礼

特別展



神奈川県立歴史博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

http://ch.kanagawa-museum.jp/

2018 10月27日(土) - 12月9日(日)

会期中、一部展示替えをおこないます。

【11月3日(土・祝) 文化の日 観覧無料】



【開館時間】9時30分～17時(入館は16時30分まで) 【休館日】月曜日 【観覧料】一般900円(800円) 20歳未満・学生600円(500円) 65歳以上200円(150円) 高校生100円 ※()は20名以上の団体料金 ※中学生以下・障害者手帳をお持ちの方は無料 ※神奈川県立博物館等の有料観覧券の半券提示による割引制度あり 【交通】みなとみらい線「馬車道駅」5番出口から徒歩1分 市営地下鉄「関内駅」9番出口から徒歩5分 JR「桜木町駅」「関内駅」からいずれも徒歩8分 〒231-0006 横浜市中区南仲通5-60 Tel.045-201-0926 Fax.045-201-7364

【主催】神奈川県立歴史博物館・文化庁 【共催】国文学研究資料館・国立歴史民俗博物館・国際日本文化研究センター・國學院大學博物館 神奈川県立金沢文庫・名古屋大学大学院人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学術センター 【協力】日本女子大学・鎌倉国宝館 【後援】神奈川新聞社・朝日新聞横浜総局・毎日新聞横浜支局・読売新聞横浜支局・産経新聞社横浜総局・東京新聞横浜支局・日本経済新聞社横浜支局 共同通信社横浜支局・時事通信社横浜総局・NHK横浜放送局・+VTV(テレビ神奈川)・ラジオ日本・FMヨコハマ



科研費 KAKENHI

この展示会は、日本女子大学の協力で、JSPS 科研費 26220401 の助成を受けて開催されます。

【関連行事】

■ 記念講演会 ■ 事前申込制 (申込多数の場合は抽選)

- ①「儀礼が生み出す中世東国の宗教世界」11月11日(日) 名古屋大学教授 阿部泰郎氏
「儀礼」という視点で地域に伝わる資料を読み解くことで、どのような中世東国の宗教世界が見えてくるのか。最新の研究成果もふまえ、深奥で豊かな世界を紹介します。
- ②「円覚寺弁天堂洪鐘祭絵巻」11月23日(金・祝) 武蔵大学教授 福原敏男氏
60年に一度の開催とも伝えられる円覚寺弁天堂の洪鐘祭(大鐘祭)。明治時代に行われたお祭りの様子を描く絵巻物に注目しつつ、祭礼と行列の魅力を紹介します。
時間:14時～16時 / 会場:当館講堂 / 定員:各回70名 / 受講料:無料(ただし、当日の特別展観覧券が必要) / 申込締切:①10月21日(日) ②11月2日(金) 必着



円覚寺弁天堂洪鐘祭行列図額 円覚寺

■ 連続講座 [全5回] ■ 事前申込制 (申込多数の場合は抽選)

- 【鎌倉ゆかりの信仰と儀礼】
展示会で紹介するさまざまな資料、祭礼、芸能について、歴史学と民俗学の多彩な視点から、各回それぞれのテーマを掘り下げる連続講座です。
- ①10月27日(土)「総論・鎌倉山ノ内の面掛行道」日本女子大学 古川元也氏
- ②11月10日(土)「金沢文庫資料にみる中世の瀬戸神社」慶應義塾大学附属研究所道文庫 高橋悠介氏
- ③11月17日(土)「県内における修験の信仰と芸能」神奈川県立歴史博物館 新井裕美氏
- ④11月24日(土)「御霊神社面掛行列と湯立神楽」神奈川県立歴史博物館 三浦麻緒氏
- ⑤12月1日(土)「中世鎌倉の神仏事と芸能」上智大学 西岡芳文氏

時間:14時～16時 / 会場:当館講堂
定員:各回70名(1回ごとの申込みも受け付けますが、連続講座のため、全5回お申込みの方を優先します。)
受講料:無料(ただし、初回受講日の特別展観覧券が必要)
申込締切:10月6日(土) 必着

■ 現地見学会 ■ 事前申込制 (申込多数の場合は抽選)

【鎌倉山ノ内の神輿行幸地を歩く】
展示会で紹介する北鎌倉山ノ内の八雲神社例大祭。毎年7月に行われるお祭りでお神輿が巡る道々を実際に歩きながら、土地に伝わる信仰を細解します。
日時:11月16日(金) 13時～16時
会場:北鎌倉山ノ内地区 / 定員:20名
参加費:無料 / 申込締切:10月21日(日) 必着

■ 子ども向け講座 ■ 事前申込制 (申込多数の場合は抽選)

【展示を見てお面を作ろう】



展示会で展示されているお面を観察して、自分だけのお面を作ります。独特のかたち、鮮やかな色、不思議な表情…どんな発見があるかな? 対象:小学生以上(小学2年生以下は保護者の付き添いが必要) 日時:12月2日(日) 13時30分～15時30分(予定) 会場:当館1階会議室 / 定員:15名 / 参加費:無料(ただし、高校生以上および保護者は当日の特別展観覧券が必要) 申込締切:11月2日(金) 必着

■ 学芸員による展示解説 ■ 申込不要 いずれも日曜日

- ①10月28日 ②11月4日 ③11月11日 ④11月18日
- ⑤11月25日 ⑥12月2日
- ①②④⑤は13時30分～14時30分、③⑥は10時～11時

会場:特別展会場
申込方法
「往復はがき」に〒・住所・氏名(子ども向け事業は学年、年齢)・氏名ふりがな・電話番号・行事名を明記のうえ、下記宛先へ。なお、1枚で4名様まで申し込み可能です(ただし、全員分の氏名を明記ください。一つの催しにつき一通でお申し込みください。なお、ホームページ「催し物案内」からもお申し込みいただけます。
宛先:神奈川県立歴史博物館 企画普及課
申込先:〒231-0006 横浜市中区南仲通5-60
http://ch.kanagawa-museum.jp/

本展ではスマートフォンアプリによる展示解説も実施します。
表:御霊神社例大祭の面掛行列 2017年撮影

人間文化研究機構

博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業『列島の祈り』

この展示会は、名古屋大学人類文化遺産テキスト学術センターで行われた「宗教テキスト遺産の探査と総合的研究—人文学アーカイブス・ネットワークの構築—」の研究成果を反映し、「列島の祈り」という共通テーマのもと、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、國學院大學博物館、神奈川県立金沢文庫とともに連携して行う展示会の一つとして開催されます。

連携展示会

■【国文学研究資料館】1階 展示室

特別展示「祈りと救いの中世」
会期:2018年10月15日(月)～12月15日(土)
休室日:日曜日・祝日および11月14日
観覧料:無料

■【國學院大學博物館】企画展示室・神道展示室

特集展示「舞楽」
会期:2018年9月15日(土)～10月28日(日)
休館日:なし

企画展「列島の祈り—祈年祭・新嘗祭・大嘗祭—」
特集展示「祈年(としごい)の法会と神々」
会期:2018年11月3日(土・祝)～2019年1月14日(月・祝)
休館日:11月19日、12月3日、4日、12月26日～1月6日
観覧料:無料

■【神奈川県立金沢文庫】展示室

特別展「顕われた神々—中世の霊場と唱導—」
会期:2018年11月16日(金)～2019年1月14日(月・祝)
休館日:月曜日および年末年始
観覧料:一般700円(600円) 20歳未満・学生500円(400円)
65歳以上200円(100円)、高校生100円、中学生以下・障がい者の方は無料 ※()内は20名以上の団体料金

※各展示会の詳細は、開催施設のHP等をご確認ください。



愛川町八雲神社の火渡り 2018年撮影

北鎌倉山ノ内の八雲神社例大祭 2017年撮影



【次回展示のお知らせ】 2019年1月19日(土)～2月17日(日)
2018年度 かながわの遺跡展「潮風と砂の考古学」

【次回展示のお知らせ】 2019年3月2日(土)～3月31日(日)

特別陳列
屏風をひらけば—
—神奈川県立歴史博物館の屏風絵—
曾我二直義筆 高山四皓・竹林七賢図屏風 右隻

近隣協力機関の展示会

【鎌倉国宝館】
特別展「国宝 鶴岡八幡宮古神宝」
2018年
9月7日(金)～10月14日(日)
特別展「開館90周年記念 鎌倉国宝館1937-1945 一戦時下の博物館と守り抜かれた名宝—」
2018年10月20日(土)～12月2日(日)

【鎌倉歴史文化交流館】
企画展
「出土漆器の美」
2018年
9月15日(土)～12月15日(土)

【建長寺 応徳堂】
「禅と茶道と鎌倉彫」
(併設「近代鎌倉彫の茶道具」)
2018年
11月16日(金)～18日(日)





序章. 鎌倉ゆかりの信仰儀礼

鎌倉には、今日でもなお中世の面影を伝えるさまざまな芸能や儀礼が存在します。これらは、そのままの姿で伝えられることはまれであり、何らかの変化を伴って今日に伝わります。鶴岡八幡宮や極楽寺など、鎌倉の古社寺に伝わった遺宝を通して、芸能や儀礼の空間を復元的に考えるとともに、信仰の継承や史料の伝来という視点からモノを見ていくことの重要性を提案します。



舞楽面 散手 鶴岡八幡宮（前期展示） 舞楽面 貴徳番子 鶴岡八幡宮（後期展示） 舞楽面 ニノ舞 鶴岡八幡宮（前期展示） 舞楽面 還城楽 極楽寺 舞楽面 抜頭 極楽寺

1. 鎌倉に残る行道芸能

鎌倉坂ノ下・御霊神社には、毎年9月18日、神輿巡行とともに、鶴岡八幡宮祭礼へ奉仕していた所縁から移されたと考えられる面掛行列が伝わっています。山ノ内では、毎年7月中旬、禅宗寺院を中心に神輿が町内をめぐる神仏習合の祭りが行われています。この祭礼にはかつては面を掛けた人々による行道が付属していたといわれています。神仏習合の宗教儀礼を今日まで残している特色ある事例から、地域の祭礼の中で芸能という営為を支えられ信仰が継承されていく様相を見ていきます。



山車装飾 白虎 八雲神社



行道面 狼田彦 御霊神社 行道面 福祿 御霊神社 行道面 阿亀(おかめ) 御霊神社 行道面 女(おんな・とりあげ) 御霊神社 行道面 烏天狗 八雲神社 行道面 狼 八雲神社

2. 金沢八景瀬戸神社の由緒と芸能

金沢八景に鎮座する瀬戸神社は、源頼朝が伊豆・三島明神を勧請して創建されたと伝える古社です。鎌倉の外港であった金沢六浦にあって、中世を通して連綿と宗教儀礼が継承され、近世には鶴岡八幡宮との交流の中で祭祀が営まれてきました。称名寺に残された聖教を読み解き、三島社とのつながりや、海と密接に結び付いた信仰のありさま、芸能を通して見えてくる鎌倉とのかかわりも検討します。



瀬戸神社の湯立神楽 2017年撮影



牛玉宝印版木 瀬戸神社



正一位大山積神宮神号額 瀬戸神社



加行太々御神楽次第 瀬戸神社



湯立神楽歌 瀬戸神社



菩薩面 阿彌陀寺



鬼神面 大山阿夫利神社



舞楽面 陵王 高部屋神社



役行者像 八雲神社



八菅山経塚遺跡出土木造合子形念持仏 愛川町教育委員会



鎌獅子 清徳寺



日向修験石造碑伝 厚木市郷土資料館

3. 八菅修験の信仰と儀礼

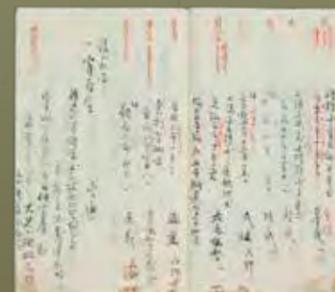
愛川町に所在する八菅神社は、中世以来修験の拠点として信仰されてきました。八菅山に遺された信仰遺物には中央の影響を受けたと思われるものもあり、境内から出土した渥美や瀬戸製の陶器（骨蔵器）は海運を通じたモノの移動も裏付けています。ここでは修験を切り口として、諸所に遺された多彩な資料から、八菅から大山、日向へと広がる県央山間部の信仰と儀礼を考えます。

4. 寺社に残る儀式の伝承と記録

鎌倉ゆかりの寺社には、今もなお多くの史料が伝えられています。これら史料の中には儀礼や儀式を伝承するものも多く、法会や祭祀で行われる芸能に関係するものもあります。寺社の運営にかかわる資料を紐解き、中核となる儀礼や儀式がどのように継承され、守られてきたのかを考えます。

終章. 信仰継承と宗教テキスト

古い時代の信仰を今に伝える寺社ですが、堂舎一ハコやその組織一ヒトだけで信仰が伝承されるわけではありません。信仰の本質が継承されるためには、文字による記録を絶えず生み出していく営みと、それをいつでも利用できるようなための努力が不可欠です。モノと史料を伝えるための営為に改めて注目し、そのような営みの上こそ、現在と過去の対話が可能であることを提示します。



浄光明寺什器帳 浄光明寺

鎌倉ゆかりの 芸能と儀礼



御霊神社例大祭の面掛行列 2017年撮影



円覚寺洪鐘祭絵巻(部分) 江島神社